

VA mints 操作マニュアル

Ver.153

作成者：VBAアセット 配布元：VBAアセット (vba-assets.net)

2026年7月30日

目次

第1章 ツールの概要

- 1.1 これは何をするツールか
- 1.2 できること・できないこと
- 1.3 安全性に関する設計方針

第2章 導入方法

- 2.1 配布物の構成
- 2.2 起動方法
- 2.3 動作環境

第3章 基本的な使い方

- 3.1 フォルダ選択・スキャン
- 3.2 ファイル名と証拠番号の扱い
- 3.3 書き出し前の確認画面
- 3.4 200MBを超える場合の扱い
- 3.5 完了時の確認とレポート

第4章 設定ファイル (config.yaml)

第5章 ソースコードとライセンス

第6章 免責事項

第1章 ツールの概要

1.1 これは何をするツールか

VA mintsは、民事裁判書類電子提出システム「mints」の「記録」への提出前に、フォルダ単位でファイル群の内容を確認し、mintsの制約（用紙サイズ・ファイル名・パスワードの有無・証拠番号標記等）に適合しているかを一括してチェックするためのツールです。

このツールは、**チェック（検出・警告）に専念する**という設計方針を採っています。用紙サイズの補正やファイル形式の変換、OCRの付与といった「原本の中身を作り替える」機能はあえて実装していません。問題が見つかった場合は、Word・Excel・PDF編集ソフトなど普段お使いのアプリケーションで修正していただき、修正後のファイルを本ツールに再度読み込んで再検証する、という使い方を想定しています。

これは機能不足ではなく意図的な設計です。証拠として提出する文書は、内容の変更それ自体が証拠価値の評価に影響しかねません。「技術的に情報を失わない処理だから自動実行してよい」という判断は、本ツールでは採用していません。ファイルの中身を変える処理（証拠番号スタンプ、ファイル名整形、メタデータ除去、枝番ファイルの結合）は、実行前に必ず画面上で内容をご確認いただき、個別に許可を選択してから実行される仕組みになっています。

1.2 できること・できないこと

できること（検出・警告）

- フォルダ内の全ファイルのスキャンと状態把握（形式・サイズ・分類）
- ファイル名の制約の検出（100文字超過・禁止文字・JIS X 0213外の文字の可能性）
- 単体ファイルの200MB超過検出（合計サイズとは別の重大警告）
- パスワード付きPDFの検出
- 操作制限（印刷・コピー制限）PDFの検出
- 用紙サイズ（A4/A3以外）・向きの不一致検出
- 墨消し完全性の検証（黒塗り・マーカー下の文字情報の残存検出）
- 号証の連番・欠番チェック
- 個人情報らしきパターン（マイナンバー・電話番号・メールアドレス・住所・銀行口座・クレジットカード番号等）の検出

できること（ユーザー確認のうえで実行する処理）

- ファイル名整形（100文字以内への調整、禁止文字の除去）
- メタデータ除去（作成者情報、Exif位置情報等）
- 200MB単位のバッチ分割（複数回提出のための事前仕分け。「提出用_01」等のサブフォルダを自動生成）

- 証拠番号（甲001等）の右上スタンプ（スタンプする番号は、ファイル名の先頭に付けられた証拠番号からそのまま決まります〔詳細は3.2節参照〕。位置調整可能）
- 枝番ファイルの結合
- 向き補正（向きが基本形〔A4=縦・A3=横〕と不一致のページの90°回転。PDFの回転属性のみの変更で、ページの内容・画質・テキストは変わりません）

できないこと（意図的に実装していない機能）

- ファイル形式の変換（DOCX/XLSX/PPTX→PDF、TIFF等→JPEG/PNG、動画・音声形式の変換）
- OCRによるテキストレイヤーの付与・削除
- 用紙サイズの自動補正（拡大縮小配置）
- 墨消し漏れの自動修復（検出・警告のみ）
- 無彩色画像のグレースケール変換
- ファイルの分割・圧縮によるサイズ削減

これらが必要な場合は、他の専用ソフトで対処したうえで、本ツールに再度読み込んで再検証してください。

1.3 安全性に関する設計方針

- **完全ローカル動作**：いかなる処理段階でも外部ネットワーク通信を行いません。クラウドAPI・外部OCRサービス・外部変換サービス・利用状況の送信・自動アップデート確認、いずれも実装していません。証拠・準備書面等の内容が、お使いのパソコンの外部に送信されることはありません。
- **生成AI（LLM等）を使用しない**：検出処理はすべて正規表現やライブラリによる機械的な判定であり、生成AIによる文字起こしや要約は行いません。
- **原本を書き換えない**：入力フォルダのファイルを直接上書きすることはなく、指定した出力フォルダへの書き出しのみを行います（入力フォルダと出力フォルダを同一に指定した場合は上書き確認が入ります）。

第2章 導入方法

2.1 配布物の構成

本ツールは、次のファイル一式で構成されています。

ファイル	内容
VA_mints.exe	実行ファイル本体（Python環境不要）
config.yaml	数値パラメータ等の設定ファイル（テキストエディタで編集可能）
LICENSE	ライセンス条文（MIT License）
マニュアル（フォルダ）	本マニュアル（PDF）
source/	ソースコード一式（Python。改変・再配布はライセンス条件の範囲内で自由）

2.2 起動方法

1. VA_mints.exe と config.yaml を、**同じフォルダ内**に置いてください（config.yamlは実行ファイルに内蔵されておらず、外部ファイルとして読み込む仕組みのため、必ず同じフォルダに置く必要があります）。
2. VA_mints.exe をダブルクリックして起動します。Python環境のインストールは不要です。
3. Windows Defender SmartScreen等により警告が表示される場合がありますが、これは未署名の実行ファイルに一般的に表示されるものです。内容にご不安がある場合は、**source/** フォルダ内のソースコードをご確認いただくか、ご自身の環境でビルドし直してご利用ください。

2.3 動作環境

Windows環境を想定しています（法律事務所の一般的なPC環境に合わせています）。

第3章 基本的な使い方

3.1 フォルダ選択・スキャン

起動後、まず入力フォルダ（チェック対象のファイルが入っているフォルダ）と、出力フォルダ（処理結果を書き出す先）をそれぞれ選択します。フォルダ欄の右にある「…」ボタンから参照ダイアログで選ぶこともできます。

入力フォルダ欄の下には「**サブフォルダ内のファイルも含める**」のチェックボックスがあります。既定はOFF（入力フォルダ直下のファイルのみが対象）です。ONにすると、サブフォルダの中のファイルもまとめて読み込まれます。他の事件の書類などが混在するフォルダで意図しないファイルまで読み込んでしまわないよう、必要な場合のみONにしてください。

「ファイルを読み込み」を押すと、対象フォルダ内の全ファイルが自動的にスキャンされ、一覧表示されます。一覧には、ファイル名・形式・サイズ・分類（A～D）・検出事項（想定される処理内容）が表示されます。なお、OSやアプリケーションが自動生成する一時ファイル（Thumbs.db、desktop.ini、Officeの作業ファイル〔～\$で始まるもの〕、.tmpファイル）は、提出対象になり得ないため読み込み対象から自動的に除外されます。

各行の左端にはチェックボックスがあり、その回の書き出し対象に含めるかどうかを個別に選べます。

一覧の「対象」見出し自体もチェックボックスになっており、ONにすると全ファイルが対象、OFFにすると全ファイルが対象外に一括で切り替わります。 いったん全て対象外にしてから必要なファイルだけを選び直す、といった操作に便利です。検出結果に問題があったファイルを他のアプリで修正し、そのファイルだけを再度読み込んで処理し直したい場合に、フォルダ全体を毎回やり直さずに済みます。

なお、分類C（要変換）・分類D（対象外）の行は、そもそも書き出せないためチェック操作ができないグレー表示になります（「対象」見出しの一括切替の影響も受けません）。

3.2 ファイル名と証拠番号の扱い

本ツールには、ファイル名を編集する機能はありません。ファイル名は、あらかじめエクスプローラー等で適切に付けたうえで読み込んでください（ツールはファイルの中身の適否からファイル名を判断できないため、意図的にこの設計としています）。

読み込んだファイル名の**先頭**が証拠番号の形式に合致すると、そのファイルは証拠番号処理（右上スタンプ・枝番結合等）の対象候補として扱われ、スキャン結果一覧の「検出事項」列にその旨が表示されます。証拠番号の形式に合致しない場合（準備書面・証拠説明書等と推定される場合）は、証拠番号処理は適用されません。証拠番号の書き方は次のとおりです。

- **ファイル名の一番先頭に置いてください。** 途中や末尾にある場合は認識されません（20260726 甲001 売買契約書.pdfや売買契約書 甲001.pdfは認識されません）。
- **符号+半角3桁の数字**が基本形です（符号は甲・乙・丙。例：甲001）。数字は3桁ちょうどが必要で、桁数が異なる書き方（甲1等）は認識されません。
- **被告が複数などで添字が必要な場合は、**符号の直後に半角英字を1文字加えます（例：乙A001）。

- **枝番のある複数ファイルを1つに結合したい場合**は、証拠番号の後ろに「-」（半角ハイフン）又は「_」（アンダースコア）で区切って枝番の数字を続けます（例：甲001-1、甲001_1）。結合対象になるのは、同じ証拠番号で枝番だけが異なる2件以上のファイルです。
- 既に1ファイルへまとめてあり、範囲（例：1～20号証）をファイル名に表記したい場合は、枝番の後ろに「~」（半角チルダ）で区切って終端の枝番を続けます（例：甲001-1~20）。この表記のファイルは既に結合済みとみなされ、結合候補には含まれません。
- 証拠番号（枝番を含む）より後ろの部分は「標目」として自由に付けられます。一次資料の例（「甲001 売買契約書原本」）に合わせ、証拠番号との間に半角スペースを1つ入れる書き方を推奨します。

証拠番号スタンプに実際に使われる番号は、この先頭部分（符号・添字・数字・枝番）から自動的に決まります。枝番ファイルを結合する場合、結合後のファイル名も、代表となるファイル（最小の枝番）の証拠番号・区切り文字・標目をそのまま踏襲して自動生成されます（例：甲001-1 領収書A.pdfと甲001-2 領収書B.pdfを結合すると甲001-1~2 領収書A.pdfになります）。

なお、ファイル名がmintsの制約に技術的に反する場合（100文字超過・禁止文字）の整形は、書き出し時の確認画面（3.3参照）で実行できます。号証の連番・欠番・重複はチェック機能が検出・警告しますので、必要な改名はエクスプローラー等で行い、再度読み込んで確認してください。

3.3 書き出し前の確認画面

「ファイルを書き出し」を実行すると、いくつかの確認画面を経て、実際の書き出しが行われます。

1. **出力フォルダの上書き確認**（該当する場合、最優先で表示）
2. **枝番ファイル結合の確認**（複数ファイルを1つの証拠として結合する場合、グループ単位でまとめて確認）
3. **号証の連番・欠番チェック**（甲002が欠けている等の疑いがある場合、書き出し開始前に一度だけ表示されます。複数ファイルにまたがる検出結果のため、後述の1件ずつの確認画面ではなくここでまとめて確認します）
4. **ファイル別の逐次レビュー画面**（「書き出し内容の確認」）

逐次レビュー画面では、書き出し対象ファイルが1件ずつ表示されます。画面右側にはプレビュー、左側にはそのファイルに関するすべての検出結果が表示されます。

- **本ツールでは対処できない検出結果**（パスワード・操作制限・用紙寸法・墨消し残存の疑い・個人情報らしきパターン・単体200MB超過）は、**一覧の先頭に赤字・チェック操作不可（OFFのままグレースアウト）**で表示されます。これらは他のアプリで対処のうえ、本ツールに再度読み込んで再検証してください。
- 区切り線の下には、**本ツールで実行できる処理**（ファイル名整形・メタデータ除去・証拠番号スタンプ・向き補正）のチェックボックスが、推奨の既定値つきで表示されます。チェックは個別に変更できます。
- **向き補正**：向きが基本形（A4=縦・A3=横）と不一致のページが検出されたPDFには、「向き補正：90° 回転」のチェックボックスが表示されます。回転はPDFの回転属性のみの変更で、ページの内容・画質・テキストは変わりません。文書の内容がどちらを向いているかはツールには判別できないため、

既定はOFFです。チェックを入れるとプレビューが回転後の見た目に切り替わるので、読める向きになることを確認してから適用してください。回転方向は「左に90° / 右に90°」から選べます（既定は左に90°。切替も即プレビューに反映されます）。枝番ファイルを結合する場合は表示されません。

- 証拠番号スタンプのON/OFFに応じて、プレビューはその場で再生成されます。スタンプがONのときは、上下左右ボタンで焼き込み位置を微調整することもできます（スタンプは向き補正後の右上に載ります）。
- 複数ページのPDFは、プレビュー上部の「◀ 前のページ」「次のページ ▶」ボタンで全ページを確認できます（画像ファイルはページ概念がないため表示されません）。原本に証拠番号が既に記載されていないか（重複スタンプの防止）は、1ページ目だけでなく全ページを確認したうえで判断してください。
- 枝番ファイルを結合する回では、さらに「◀ 前のファイル」「次のファイル ▶」ボタンで結合対象の各ファイルを切り替えてプレビューできます。スタンプは結合されるすべてのファイル（それぞれの枝番ラベル）に載るため、代表の1件だけでなく全ファイルを確認したうえで判断してください。
- 内容を確認のうえ、「**この内容で書き出す**」を選択すると、その1件を書き出して次のファイルに進みます。「**キャンセル**」を選ぶと、その1件だけを書き出さずにスキップして次のファイルに進みます。**残りのすべてのファイルをまとめて中断したい場合は、ウィンドウ右上の×ボタンで画面を閉じてください**（未処理のファイルは入力フォルダにそのまま残ります）。

書き出しの途中で個別のファイルの書き込みに失敗した場合（出力先のファイルを他のアプリで開いている等）は、エラー内容とともに「この1件をスキップして続行するか、全体を中止するか」を選択できます。また、レビュー画面での選択変更（ファイル名整形の取りやめ等）により、事前の上書き確認とは別のファイル名で出力先の既存ファイルと重なる場合は、書き出しの直前に改めて上書き確認が表示されます。

3.4 200MBを超える場合の扱い

合計サイズが200MB（既定の安全マージン90%＝180MB）を超える場合、出力フォルダの直下に「提出用_01」「提出用_02」…という提出回ごとのサブフォルダが自動生成され、ファイルが振り分けられます。1回の提出で収まる場合は、サブフォルダを作らず出力フォルダ直下にそのまま書き出されます。

なお、**単体で200MBを超えるファイル**が検出された場合は、複数回に分けても解決しない重大な警告として、別途強調表示されます（圧縮・分割の実行機能はないため、他のツールで対処してください）。

3.5 完了時の確認とレポート

すべての検出結果は、書き出し前の逐次レビュー画面（3.3参照）で1件ずつ必ず表示されるため、書き出し完了後にまとめて警告する画面はありません。完了時には、書き出した件数（スキップした件数があればその件数も）を示すダイアログが表示されます。

完了ダイアログには「OK」と「**フォルダを開く**」の2つのボタンがあり、後者を選ぶとダイアログを閉じると同時に出力フォルダがエクスプローラーで開きます。

なお、スキップ（レビュー画面でのキャンセル・上書きの辞退・書き出しエラー）により、書き出し前のチェック時にはなかった号証の欠番（例：甲003だけをスキップした結果の欠番）が新たに生じた場合

は、完了前にその旨の警告が表示されます。

処理結果はテキスト形式のレポート（mints提出前レポート.txt）として出力フォルダに保存されます。レポートには、重要警告（単体200MB超過・墨消し残存・個人情報パターン）、検出のみの要修正事項（パスワード・操作制限・用紙寸法・向き不一致。書き出さなかったファイルの分も含めた全件）、ファイルごとの検出事項と実際に適用した処理（枝番ファイルを結合した場合はどの元ファイルを統合したかを含む）、号証の連番・欠番チェックの結果、複数回提出の内訳、書き出さなかったファイルの一覧（スキップ・失敗の理由付き）が記録されます。

第4章 設定ファイル（config.yaml）

config.yaml では、数値パラメータ等をハードコードせず一元管理しています。テキストエディタで開いて編集できます。主な項目は次のとおりです。

セクション	主な項目	内容
upload	max_total_mb、safety_margin_ratio	1回のアップロード合計上限（既定200MB）と分割時の安全マージン（既定90%）
evidence_number	symbols、digits	証拠番号の符号（甲・乙・丙）と桁数
filename	max_length、warning_length、forbidden_chars	ファイル名の上限文字数（既定100）・警告閾値（既定50）・禁止文字
evidence_stamp	font_size_pt、margin_top_mm、margin_right_mm、style	証拠番号スタンプの文字サイズ・余白・見た目（既定は赤字）
pdf	a4_mm、a3_mm、size_tolerance_mm	用紙寸法と判定の許容誤差
pii_detection	patterns	個人情報パターン検出の正規表現（追加・調整可能）
logging	log_dir、level	デバッグ用詳細ログの出力先とレベル

各項目には、根拠とした一次資料（操作マニュアルの版数、準備の手引の版数等）がコメントとして記載されています。数値の意味や根拠を確認したい場合は、config.yaml 内のコメントを直接ご参照ください。

編集内容に誤りがある場合（正規表現の書き間違い、必要な項目の削除等）は、起動時にどこをどう直すべきかを示すエラーダイアログが表示されます。その場合は、メッセージに従って該当箇所を修正するか、配布時の config.yaml の内容に戻してください。

第5章 ソースコードとライセンス

本ツールはPythonで開発されており、`source/` フォルダにソースコード一式を同梱しています。オープンソースソフトウェアとして、**MIT License**の下で公開します。改変・再配布・商用利用を含め自由にご利用いただけますが、著作権表示とライセンス条文（`LICENSE` ファイル）の保持が条件となります。詳細な条文は同梱の `LICENSE` ファイルをご確認ください。

なお、本マニュアルが参照する制約（mintsの操作マニュアル・Q&A・準備の手引）は、いずれも取得時点の版に基づくものであり、mints側の仕様変更に自動追従するものではありません。制約に疑義が生じた場合は、まず一次資料の現物、それでも解決しない場合はmints画面内の最新情報をご確認ください。

第6章 免責事項

- 本ツールは、mintsの本番環境への接続テストは行っておりません。要件定義書に記載された各種エラー条件を再現したサンプルファイルによる検証にとどまります。
- 本ツールによる検出・警告は、一次資料の精査に基づく推測を含みます。最終的な提出の可否は、必ずmints画面上での実際の挙動によってご確認ください。
- 本ツールの利用により生じた損害について、作成者は一切の責任を負いません（LICENSE記載のとおり、現状有姿で提供されます）。

更新履歴

バージョン	日付	内容
Ver.153	2026年7月30日	アプリのアイコンを改善（フォントを欧文太字〔 Segoe UI Bold〕に変更して文字をより太くくっきりした表示にするとともに、「VA」の文字を拡大）。
Ver.152	2026年7月29日	チェックボックスのチェックマークが「☑」形状で表示され、利用不可のように見えていた問題を修正（枝番ファイル結合の確認画面、およびメイン画面の「サブフォルダ内のファイルも含める」）。アプリのアイコンを「mints」1行から「VA」「mints」の2行表記に変更。
Ver.151	2026年7月26日	ツール名を「VA mintsチェック」から「VA mints」に短縮（実行ファイル名もVA_mintsCheck.exeからVA_mints.exeに変更）。証拠番号の枝番ファイル結合時、結合後のファイル名に生じていた不要な区切り文字の残存を修正するとともに、証拠番号と標目の区切り文字（空白／アンダースコア等）は代表ファイルの表記をそのまま踏襲するよう改善。マニュアル3.2節に証拠番号の書き方（先頭に置くこと・添字・枝番の具体的な表記）を詳述。

バージョン	日付	内容
Ver.150	2026年7月26日	要件適合性の全面レビューに基づく改良と修正。 ①JPEGのメタデータ除去を無損失方式に変更（従来方式に伴っていた再圧縮による画質劣化を解消）。 ②動画・音声のメタデータ検出を強化（スマートフォン動画のGPS位置情報等の非標準タグも検出対象に。検出できない形式は「検出未対応」と明示）。 ③操作制限PDFの検出範囲を拡大（編集のみ制限・全権限許可の暗号化PDFも検出）。 ④枝番ファイル結合時のスタンプが、回転属性付きページで正しい位置に載らない問題を修正。 ⑤逐次レビュー画面の結合グループに「前のファイル／次のファイル」ボタンを追加（結合対象の全ファイルをプレビュー確認可能に）。 ⑥サブフォルダを含めるかのチェックボックスを追加。 ⑦レポートに「検出のみの要修正事項」「書き出さなかったファイル（理由付き）」を追加。 ⑧号証チェックの精度向上（全角の添字・枝番区切りの表記揺れによる重複見逃し、親番号と枝番の併存の検出）。 ⑨ファイル名のJIS X 0213外の文字をB（要修正）として表示。 ⑩config.yamlの編集ミス（書式の破壊・項目の削除等）が起動時に必ずエラーダイアログで案内されるように改善。 ⑪.mp4拡張子のHEIC画像のすり抜け防止ほか多数の修正。
Ver.140	2026年7月25日	向き補正機能を追加（向きが基本形と不一致のページを、回転属性のみの変更〔内容・画質・テキスト不変〕で90°回転。回転方向を選択でき、プレビューで確認してから適用）。
Ver.130	2026年7月25日	すべての検出結果を逐次レビュー画面（書き出し内容の確認）へ一元化し、本ツールで対処できない検出結果は先頭に赤字で表示するようにした。これに伴い書き出し完了後の集約警告画面は廃止。「書き出しを中止」ボタンを「キャンセル」（その1件のみスキップ）に変更し、全件中断はウィンドウを閉じる操作に割り当てた。完了ダイアログに「フォルダを開く」ボタンを追加。検出・処理の不具合を多数修正（パレット形式画像のメタデータ除去による画像破壊、PDFメタデータ除去後の再検出、JPEGのメタデータ誤検出、表の網掛け等の墨消し誤検出、回転付きPDFの向き判定・スタンプ位置、日本語文中の電話番号等の見逃し・全角数字対応、戸籍謄本の発行番号等の書類番号を銀行口座番号と誤検出する問題、全角チルダの枝番範囲、書き込み失敗時のエラー処理、設定ファイルの検証、一時ファイルの除外ほか）。

バージョン	日付	内容
Ver.120	2026年7月24日	逐次レビュー画面のプレビューで、複数ページPDFの全ページをページ送りボタンで確認できるようにした。書き出し完了時の警告ダイアログの対象を、実際に書き出したファイルのみに限定（対象外チェックや分類C/D等、書き出さなかったファイルの検出事項が紛れ込む問題を修正）。逐次レビュー画面の既定ウィンドウサイズを縦方向に拡大し、プレビュー下端が見切れる問題を修正。
Ver.110	2026年7月24日	対象選択の一括ON/OFF機能（一覧「対象」見出しのチェックボックス）を追加。書き出し完了時の警告ダイアログに、検出のみ行った要修正事項（用紙寸法・向き・パスワード・操作制限）を追加し、検出事項を1つの一覧に統合。画面デザインをMicrosoft製ダイアログの質感に統一。実行ファイル・ウィンドウにアイコンを設定。
Ver.100	2026年7月21日	初版公開。VBAアセット（vba-assets.net）にて、実行ファイル・設定ファイル・本マニュアル・ソースコードをMIT Licenseの下でオープンソース公開。